

平成30年度 学校目標自己評価表

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	代表的な意見・評価の理由
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	自主活動についての議論の場を設定。 生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。	4.0	【自治活動支援】 ・行事によっては、その日程について、できる限り生徒の意見要望を尊重しつつ調整をおこなった。 ・クラス討議等が成り立つように、議論の場の設定を多くしていきたい。 【自主的な学習】 ・自学自習を促す教材を用意している。 ・課題・教材等与えずに、自ら学ぶという点では、課題の精選、教科間の調整が必要である。 ・課題に対し自分の答えを導き、イメージを具現化する創造力、時間や制作工程をデザインする自己管理能力、自他の魅力を感じられる情報力を養えるよう教材設定をし、学習の支援をした。 【学年の実践】 ・生徒一人ひとりの自主性を促し、文化祭の取り組みを支援した。また、進路実現に向けても主体的に取り組んでいる。 ・学年諸行事の運営を幹事会を中心として行うよう考え、適切なアドバイスをを行うことができた。
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	自学自習ができる向上心・探究心の涵養。 自学自習の学習時間を確保するための研究。 探究的な学びを推進するための研究。	3.8	【土曜日活用の研究】 ・調査前の平日に土曜授業を配置することで、自学自習の時間を確保した。 【学年集会・HRでの喚起】 ・土3の「総合」の時間を活用した探究的学び・グループ学習を行い、次年度に向けての足掛かりができた。 ・1年には5月に講演会も実施した。10月に名古屋大学の先生による工学部の説明会を実施した 【教科等の実践】 ・学会、研究機関などの見学を積極的に行い、生徒の視野を広げることに役立った。 ・アクティブラーニングを授業に取り入れる研究を行い、授業に生かした。 ・平面、立体、デザイン、マルチメディアなどいろいろな分野の表現領域の制作をして、意見交換をしながら鑑賞をし、生活の中にあるデザイン、造形物への関心を促した。 夏休みに美術館へ行ってレポート書く宿題を出したり、作品を公募に応募するなど、視点を学校の外にも向け、教科と社会との結びつきを感じさせながら学習した。 【教科等の実践】 ・単元テストや小テスト等によって、基礎学力の定着をはかっている。 ・教授型の授業だけでなく、探究的に学ぶ力を育成する授業も取り入れることが大切である。 ・英単語、熟語テスト等小テストを実施し、学力の定着を図った。 ・電子黒板を利用することで、具体的な資料提供により、より深い学びを目指している。 ・授業に関連する書籍を紹介して、授業内容以上の知識を得たい生徒を啓発することができた。
	学習指導	進路希望の実現を図る	教育課程の改善と次期教育課程の研究。 生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	3.8	【教育課程の研究】 ・来年度から道徳教育、総合的な探究の時間の実施が年度途中で出されたが、細部にわたり、計画を立て、実施に向けての準備をすることができた。 ・現行教育課程の反省も集約し、教育課程作成方針を作った。来年度は、計画に従い、課題解決を行っていきたい。 【学年の実践】 ・東大生による出張セミナーを開催し、学年全体に対しては大学での学びに対する意欲を喚起するとともに、希望者を対象に学習方法についてのワークショップを開催し、問題解決スキルの向上を図った。 ・小論文模試を全員受験し、その答案をふまえた専門家による小論文講演会を実施した。 【教科等の実践】 ・年間指導計画(シラバス)を作成し、それに基づいて丁寧な学習指導をおこなっている。 ・進路に沿った小論文の個別指導を行った。 ・英語外部テストの案内をしたところ多くの生徒が積極的に参加した。 ・学力向上のため補習を行い理解が深まった。
	進路指導	計画的な指導を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	3.9	【係の実践】 ・学習実態調査、進路希望調査の結果を校内で共有し、進路指導に役立てている。 ・進路別ガイダンス、模擬講義、卒業生と語る会、大学生によるワークショップ、医学科講演会などを実施して、進路について考える機会を提供している。 ・スタディサポート、模擬試験、適性検査の分析を行い、各学年の個別指導に役立てている。 ・黎明(合格体験記)および学年通信を通して進路意識の高揚を図っている。 【キャリア研修・オープンキャンパス】 ・1年は夏休みに1日のキャリア研修、2年は10月に一泊二日のキャリア研修旅行を行い、大学と学問研究、企業と職業について広い視野を持ち理解を深めた。 【実技・面接指導】 ・医学科志望者とその保護者に対して、信州大学医学部や病院、予備校等と連携して、医療の現状と医学科入試を分析し、模擬面接も取り入れて実施した。
	生徒の自治	自治活動を保障し 自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。 文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	3.9	【自治活動の涵養】 ・生徒会活動においては、「自治」の精神に基づき、生徒の自主性を尊重しつつ、広く社会に受け入れられる人間形成の場として、助言、指導、支援をしている。 ・生徒会行事に際しては、教職員から適切な支援・指導等を行う必要がある。 【幹事会】 ・学年諸行事を進行も含めて、幹事会を中心として行うこととし、それについて適切なアドバイスをを行うことができた。 【HRの実践】 ・各クラスで幹事会からの提案や意見の求めについての話し合いを持ち、学年行事のよりよい計画・実行を図ることができた。 ・生徒主体による、クラスマッチ・合唱コンクール、文化祭等の行事を企画運営した。
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間徹底)。 清掃・保健・交通安全指導。	3.5	【生活リズムの管理・交通安全】 ・部活動、生徒会活動時間を守ることで、生徒が家庭学習時間、朝の登校等も含めた時間の自己管理ができるよう考慮したが、更に徹底すべき場面もあった。計画性、またその実現性のイメージをしっかりと持てるように配慮したい。 【学年の実践】 ・生活のリズムをつくることのできる生徒もいれば、リズムをつけない生徒もいる。学習体制を含め早いうちから習慣づけることが大切である。 ・学年全体的に遅刻・欠席等が少なく生活リズムを作ることもできた。 ・「手帳」を用いた時間管理を推奨し、生徒によっては十分に活用し、学習・生活の記録をすることで自己の生活を律することができた。 【清掃】 ・清掃への取り組みが良い生徒が増えてきている。 ・厚生委員が中心となって行う清掃活動は、自主的雰囲気の中で行われ、伝統ある校舎の美化に貢献している。(校内ワックスがけ、校内油敷き、モップ交換、文化祭後清掃活動等) ・行事の関係で3回のワックスがけとなったが、効率よく展開できた。
生活指導	適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	教科担任・HR担任・クラブ顧問の連携。 きめ細やかな生徒相談の実施。 保護者との懇談の実施。	4.0	【カウンセリング】 ・年度当初などに、生徒・保護者へカウンセリングの申込方法について周知したこともあり、今年度カウンセリングを受けた対象生徒の実人数が23人であった(昨年度14人より9人増)。希望したり、支援が必要な生徒がカウンセリングをタイミングよく受けられるよう、カウンセラーと連絡を密にとり調整を図った。 ・カウンセリング対象生徒の担任とカウンセラーが情報を共有し、生徒や保護者への丁寧な対応につなげることができた。 【サポート体制】 ・教頭、学年主任、養護教諭、サポート委員長から成る定例会を設置し、カウンセリングの利用状況、生徒動向を確認する機会を作った。 ・職員会の議題の中に「各学年より」という項目を作り、支援が必要と思われる生徒の様子を職員全体で共有した。 ・様々な悩みに対応する相談窓口案内を張り、生徒に配り、1人で悩みを抱え込まないよう、学校内外の頼れる場所を提示した。 ・上記の取り組みで職員も生徒が抱える問題を昨年度より認識するようになった。 ・生徒理解の一助として各種検査を実施し、生徒面談、保護者懇談のアドバイスに活用した。 【環境対策・危機管理】 ・H32年4月からの敷地内禁煙完全実施に向けて環境整備を行っている。 ・台風の影響を考慮して2時間の授業カットを行った。(回復処置済み) 【事務室】 ・環境目標を掲示板に掲示し周知を図るとともに、環境手帳の確認により職員の意識付けを図った。	
学校運営	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。 いじめ・体罰のない学校環境の確保。 健全な職場づくりの推進。 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.4	【緊急時ミーリングシステム】 ・台風の影響による日課変更、文化祭前の生徒の安全確保、就学支援金事務手続き、PTA関係の諸連絡等で一斉メール配信システムを活用した。 ・地区PTAにおいて学校の近況を報告し、保護者との課題の共有を図った。 【学年等の実践】 ・年1回のPTA総会・学年PTAの実施、複数回の学級PTAの実施によりそれぞれの方針・課題を伝え、共有することができている。 ・地区PTAは出席率も高く、非常に有効な交流の場となっている。そのため新たに開催される地区が増えてきている。 ・適宜、正副担任と保護者・生徒との面談を実施し、学校生活や進路についての相互理解をはかっている。 【中学校などへの発信】 ・昨年度に引き続き、松本市内・周辺地域の中学校への訪問をおこなった。直に本校の様子を伝えることで、深志高校をより現実的に理解していただけた。 ・9月の体験入学では、中学校の教諭・生徒・保護者、800名弱の方に来校していただけた。深志高校を知っていただく好機となった。
	開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。 地区PTAの開催。 保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。 緊急時ミーリング・システムの活用。	4.0	【他校との交流】 ・PTA活動の一環として、本校、長野高校、上田高校の3校による交流会を実施している。本年度は深志高校が当番で、公開授業をおこない、その後情報の交換をし、懇親会などで親睦を深めることができた。次年度は上田高校の予定。
	開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。 保護者・地域・中学校への情報発信。 中学生体験入学等の実施。 学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.3	【学校評価・HP】 ・生徒の評価、学校評議員・PTAによる外部評価をおこない、PTA会報やHPを利用してその結果を報告した。 ・HPIについては、常に更新することで深志の近況の発信に努めた。学校長の作成している「校長通信」は学校内外で大変評判がよい。	